

令和２年３月３日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）リーダーシップに対する認識について

職員１４，０００名の長である教育長に，自身のリーダーシップ資質について，どのように自己分析しているのか，また，職員に対し，これからの時代，どういうリーダーシップを発揮してほしいと考えているのか，併せて，伺う。

（答）

リーダーシップにつきましては，様々な考え方があると思えますけれども，私自身は，議員が例示された内容で申しますと，重い石を引っ張るとき，その上に立ち，石の進むべき方向を示すのではなく，みんなと一緒に重たい石を引っ張るタイプであると認識しております。

そのため，私は，教育長に就任して以来，現場主義を掲げ，全ての県立学校や小中学校等の訪問などを通して，教職員や児童生徒の声に耳を傾け，教育環境や児童生徒の実態を踏まえた施策を展開してきたつもりでございます。

さらには，「教育長とこれからの学校教育の在り方について語る会」を開催するなど，役職や年齢等に捉われず，教職員と率直に意見交換を行える場づくりに努めてきたところでございます。

その上で，私のリーダーシップについてのお尋ねでございますが，正直，まだまだ全くの発展途上の段階にあると考えております。

例えば，リーダーの仕事は，部下を管理することではなく，相談できる人に育てることであると聞いたことがあります。まさに同感であります。私自身，管理的立場にある者として，相談されやすい環境づくりにより一層努力していく必要があると考えております。

一方，いわゆる管理的立場ではない教職員にあっては，リーダーシップとともに，自立的に組織貢献を行うグッドフォロワーシップを発揮してほしいと考えており，それにより，指示待ち集団ではなく，一人ひとりが考え，自由闊達に議論し，アイデアを出しあえる組織風土にしていくことが大切であるとと考えております。

私といたしましては，Society 5.0の到来や，グローバル化の進展など，様々な課題が複雑化・高度化していく，先行き不透明な社会の中で，次代を担う子供たちが，未来を生き抜く力をしっかりと身に付けることができるよう，必要なリーダーシップとグッドフォロワーシップにより，組織力

を向上し、新たな時代に対応した取組に果敢に挑戦してまいりたいと考えて
おります。御指導よろしくお願いたします。